

第5回関西みみはなのど治療研究会

記録的な猛暑も終わり、ようやく秋らしい気候となつてまいりました。先生方におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平成25年9月7日土曜日に例年通り大阪中之島・リーガロイヤルホテルにおいて、第5回関西みみはなのど治療研究会を開催させていただきました。毎年この時期は天候が不順で、過去にも台風直撃で開催が危ぶまれたこともありましたが、今回はなんとか天気は持ちこたえてくれました。ご多忙にもかかわらず、ご参加いただきました先生方には改めて御礼申し上げます。

さて今回は内容を少し欲張りしました。一般演題では、過去3年間の当院での耳疾患、鼻疾患に対しての外科的治療の現況と簡単な治療成績についてお話させていただきました。また初めての試みでしたが、痙攣性発声障害について、S.D.C.P（痙攣性発声障害患者会）の田中美穂代表にもお越しいただいて、ご自身の体験を語っていただきました。このような講演会や勉強会ではともすれば無味乾燥な内容になりがちですが、ご自身の辛い体験を患者さんの立場から語っていただいたのは、ご出席の先生方には強いインパクトがあったようでした。特別講演では喘息と好酸球性副鼻腔炎をテーマとしてお二人の先生方にご講演いただきました。ご満足いただいた旨、複数の先生方からご感想をいただきました。今後も臨床に役立てる内容を提供して参りたいと思います。よろしくお願ひ申し上げます。



◆一般演題 座長 村上匡孝先生（村上クリニック院長）

◎「当院における耳疾患、鼻疾患への外科的治療の現況」

演者 田村 芳寛（京都みみはな手術センター 副所長）

手術センター立ち上げから3年経過し、当院で行った手術症例の成績及びその考察についてお話させていただきました。重症のアレルギー性鼻炎に対して行う後鼻神経切断術の効果は確かに高いのですが、蝶口蓋孔付近の操作を伴うため、頻度は少ないものの術後出血を起こした時に対処が難しくなります。昨年夏ごろより、蝶口蓋動脈を温存しながら、神経のみ切断するよう心掛けており、確かにそれ以降術後出血はほとんど見られません。今後も症例を重ねて、より安全かつ効果が高い方法を追求してゆきたいと思います。鼓室形成術についても、新鮮例について術後成績を検討しました。聴力については他の施設の報告と比べ遜色ないものでした。当院では真珠腫症例において、できるだけ canal wall up で行う方針ですが、2nd stage における真珠腫の遺残が成人ではゼロで、小児において3例認められるのみでした。今後長期的にみて再形成性再発がどの程度起こるのか、フォローアップしてゆきたいと思います。



◎二題目「痙攣性発声障害 患者の立場から」

演者 田中 美穂 さま（S.D.C.P 代表）

ご自身の発症した時点から、治療を受け現在に至るまでのお話を語っていただきました。「声が出にくい」ことがどのような場面でどれだけの苦痛があるか、ということについてはお話を聞くまであまり理解していないことに気づきました。本疾患に特徴的なことではありますが、傍から見た症状が必ずしも重症でなくとも本人の苦悩が非常に強い疾患です。実際の患者さんご自身のお話を伺うことで、診療にフィードバックできたのではないかと思います。なお、S.D.C.P（spasmodic dysphonia cheering party）という組織は、基本的にボランティアで活動されています。本疾患が少しでも社会に認知されるよう、教育機関や役所関係、代議士の方々にも積極的に働きかけて活動を行っておられます。SD についてのリーフレットやポスターも製作されています。SDCP の HP (<http://sdcpc.bumi2.com/>) のトップページに「リーフレットご希望の方へ」というリンクがございますので、よろしければ待合室などに置いていただければと思います。篤志家の先生方には、寄付という形での協力も検討していただければと思います。



◎三題目「痙攣性発声障害 診断と治療」

演者 廣芝 新也 (ひろしば耳鼻咽喉科 院長)

音声外来を開設して2年が過ぎました。それまではあまり診察する機会がなかった痙攣性発声障害をはじめとする声の難病に遭遇する機会も増えました。この貴重な経験をもとに、痙攣性発声障害の診断と治療という点についてお話しさせていただきました。内転型は頻度が高く、徐々に認知されるようになっていきます。会場にご参加の先生方も約3分の1の先生方が外来で診断したご経験があるようでした。重症例はほぼいつも症状があるため、診断につながりやすい一方、軽症例では受診した時に限って声が良くなる方もおられ、それゆえ更に診断が困難になっています。軽症例では、医療機関でも診断がつかず職場や学校でも理解されないという二次的な被害を受けているケースもあります。鑑別診断として、まず内転型か外転型かの判断、Muscle Tension Dysphonia (MTD) や心因性失声症、本態性震戦などとの鑑別などが必要です。外転型の実際の症例やMTD疑いの症例を供覧させていただきました。なお、MTD に対しては音声治療が有効であるとされています。実際に当院の症例で、わずか1, 2回のボイストレーニングで改善した例もございます。

また、一色クリニック閉鎖に伴い、引き続き当院で

「一色記念ボイスセンター」

を設立しました。喉頭枠組み手術を中心とした音声治療を引き継ぎ、一色信彦先生、田邊正博先生と廣芝、更にボイストレーナーの轟美穂さまで音声治療にあたっております。音声障害でお困りの症例がございましたら、是非ともご紹介ください。



◆特別講演 座長 蔦佳明 先生(南大阪蔦耳鼻咽喉科院長)

◎1「アレルギー性気道炎症と黄砂 耳鼻科医が始める喘息コントロール」

演者 伊藤功朗先生(京都大学医学部附属病院 呼吸器内科助教)

◎2「好酸球性副鼻腔炎の手術を中心とした治療戦略」

演者 松脇由典先生(東京慈恵会医科大学 耳鼻咽喉科講師)



今回の特別講演は喘息と好酸球性副鼻腔炎をテーマにさせていただきました。鼻副鼻腔疾患の細菌感染は抗生剤で概ねコントロールされるようになりましたが、一方でアレルギーをベースとする好酸球性副鼻腔炎や副鼻腔真菌症は増加しつつあります。

伊藤先生には呼吸器内科の立場から基本的な喘息についてのお話と黄砂やPM2.5などについての研究成果や最新の知見についてお話しいただきました。他科の先生のお話を伺う機会も少ないと思い、大学時代の同級生の伊藤先生に無理をお願いして、ご講演いただきました。



松脇先生には外科的な立場から、好酸球性副鼻腔炎のみならずアレルギー性真菌性副鼻腔炎(AFRS)についてお話をいただきました。PCトラブルがあり皆様方にはご迷惑をおかけいたしました。松脇先生の個人技で乗り切っていただきました。運営する立場としても、次回以降は必ずバックアップを用意すべきであると反省させられた次第です。実はご出席の先生方から改めて松脇先生のお話を伺いたいと強い要望があり、2年後の本研究会でリベンジしていただくこととなりました。それまでに当院でも好酸球性副鼻腔炎についての手術法の検討やデータの整理をしておきたいと思っております。

以上ご報告させていただきました。第6回関西みみはなのど治療研究会は1年後の平成26年9月6日(土)に同じリーガロイヤルホテル大阪にて予定しております。皆様方のご参加お待ちしております。(文責：廣芝新也)



「痙攣性発声障害 —患者の立場から—」

S.D.C.P 代表 田中 美穂 さま

小さいころから熱をしょっちゅう出す私にとって、お医者様は私の命を救ってくださる「神様」のような存在でした。そんな先生方の前で9月7日（土）、痙攣性発声障害を罹患している者の代表として、30分間お話をさせていただきました。S.D.C.P 発声障害患者会を発足して以来、患者会イベント、小学校の保険の先生、厚生労働省、議員、マスコミ等に向けてはお話をしたことがありましたが、お医者様の前でお話をすることは初めての経験でした。私を診てくださる立場の方々に、上段から病気について語っても良いのだろうか・・・日々、患者の為に尽力してくださっている先生方に「こんな病気を知って欲しい」と言うのはどうなんだろう・・・廣芝先生からこのお話を頂いた時、この上ない喜びと共に、少しの不安を感じました。然し、廣芝先生は「研究会に来る先生方は、熱心な方が多いので、むしろ喜ばれると思います。」と仰ってください、一気に不安は解消しました。当日、私の拙い話に対し、先生方は熱心に耳を傾けてくださり、その後の懇親会でも、病名認知の為にポスターやリーフレットを送って欲しいと仰る先生もいらっしゃいました。聴いてくださった先生方には、心から感謝しております。今後も、もし、こういった機会を下さったら、日本中どちらにでも馳せ参じます！ 現在、診断されている痙攣性発声障害患者は全国に2,000人とされていますが、声に苦しむ、推定200,000人とされる潜在患者達が生きやすい社会になるようこれからも活動を続けて参ります。



第5回みみはな Cup 於 田辺カントリー

研究会の翌日の9月8日（日）に第5回みみはな Cup を開催いたしました。16名4組の方々にご参加いただきました。今回は（今回も？）前日から激しい雨の予想で、当日の朝スタート室前に集合した時も土砂降りの雨！自らを鼓舞するためにも「絶好のゴルフ日和ですね」と皆様にご挨拶しましたが、スタート3ホールくらいすると雨も上がり、本当に絶好のコンディションとなりました。優勝は後藤英一郎先生（ごとう耳鼻咽喉科）、準優勝は森岡稔勝先生、ベストグロス武内英二先生でした。

次回も来年の9月7日（日）に同じ田辺カントリーで開催予定です。コンペだけのご参加も大歓迎です。ご参加お待ちしております。



優勝者コメント

優勝者 後藤英一郎 先生

あいにくの雨の中のスタートとなりましたが、メンバーに恵まれ楽しくラウンドさせていただいたのと、たくさんのハンデをいただき、思いもせぬ優勝をさせていただきました。

午前中はドライバーが一発も当たらず、右に左へと大暴れで、木の下、林の中とトラブルの連続でした。午後には皆様の日頃の行いが良いためか天候が回復し、私のドライバーショットも回復しましたが、出入りが激しい結果となりました。これがたまたま、ダブルペリアのツボにはまった結果、多くのハンデをいただいたようです。

今後も参加させていただき、運に頼らず実力で上位を目指せる様頑張りたいと思います。

また、日頃交流を持つことのできない色々の先生方と、楽しい一時を一緒に過ごせるよう、ご尽力いただいた廣芝先生に感謝いたします。



専門外来についてのお知らせ

患者さんのご紹介につきまして改めてお知らせいたします。基本的に当院の診療日であればいつでもご紹介患者さんの診察は承りますが、特に一色信彦先生、田邊正博先生、岩永迪孝先生の診察をご希望される場合は、下記の時間帯にご予約させていただきます。その日に患者さんの都合がつかない場合は、一旦廣芝もしくは田村が診察をさせていただいたうえで、診療内容を上記先生方に相談させていただく事も可能です。引き続きご紹介の程よろしく願い申し上げます。

音声外来 担当医 一色、田邊、廣芝
第2・4火曜日 13:00～15:00 第3木曜日 13:00～15:00
第3木曜日は、ボイストレーナーの轟美穂氏が音声治療を行っております。

中耳・難聴外来 担当医 岩永、廣芝、田村
毎週木曜日（但し第1木曜日は休診） 9:00～12:30

手術見学についてのお知らせ

毎年ご案内申し上げておりますが、手術見学は随時受け入れ可能です。この1年でも多くの施設から見学にお越しいただきました。開業するとどうしても手術に携わる機会が減ってしまいますが、外来診療への刺激を与える意味でも見学していただくことは有益ではないかと考えております。

月・水・木の手術日に加え、第1・3・5週の火曜日午後が手術日です。原則として、耳の手術は毎週水曜日と隔週の月曜日、鼻の手術は毎週木曜日と隔週の月曜日、音声・形成関連の手術は火曜午後に行っております。

この機会に、先生方のお考えやご要望をお伺いして、今後の医療活動に生かしてゆきたいと考えております。午前中だけ、もしくは何時から何時まで見学希望という形でも結構です。お申込みお待ちしております。

（文責：田村芳寛）



事務長のご挨拶

医療法人顕夢会 事務長 山田昌彦

第5回関西みみはなの治療研究会へ多数ご参加いただきましたことをお礼申し上げます。また、第5回みみはなCUPには16名のご参加を得て開催出来ましたことを嬉しく思っております。

特に、みみはなCUPの日は台風の影響もありまして、朝方から雨が降り続いていましたが、廣芝先生の「こんなの雨のうちに入らないから頑張ってください！」との掛け声のもとにスタートし、プレーされている先生方の思いが通じたのか、5ホール目くらいには雨が上がり、以後は青空のもとでのプレーとなり、楽しく懇親を深めていただけたのではないかと考えております。来年も是非、ごぞってご参加ください。

また、日頃は患者さんのご紹介をいただくなど、大変お世話になっております近隣の開業医の先生方のご意見をお伺いするために、適宜ご訪問をさせていただいております。先生方の忌憚のないご意見をお伺いして、ご要望により一層お応えしたいと考えております。今後ご挨拶にお伺いさせていただいた際には、よろしくお願い申し上げます。

**ひろしば耳鼻咽喉科
京都みみはな手術センター**

〒610-0355
京都府京田辺市山手西 2-2-3 日東西ビル 2F・3F
TEL : 0774-64-0789(外来受付) 0774-46-8719(手術相談)
FAX : 0774-64-0872
<http://www.hiroshiba.com/> <http://www.kyoto3387.jp/>